

丹波に根付く美術の系譜。郷土ゆかりの作家たち

本展では、前回に続いて丹波市ゆかりの画家たちを紹介いたします。今回は「親子」をテーマに現代の美術作家2組を取り上げます。

1組目は常岡文亀・幹彦父子です。文亀(1898〜1979)は東京美術学校を卒業し、同校で教員として後進の育成にも力を入れました。文亀の長男である幹彦(1930〜2015)は、東京芸術大学日本画科を出て日展入選を重ね、独自の「玄」の世界を追求しました。もう1組は、山本茂斗萌・中尾英武父子です。東京出身の茂斗萌(1902〜1985)は東京美術学校を卒業後、柏原町で長年美術教師を勤めながら、堂本印象の画塾「東丘社」で学び、丹波から多くの作家や美術教師を輩出しました。その実子である中尾英武(1943〜

2021)は、京都市立美術大学卒業後、父同様「東丘社」に所属して活躍しました。

本展では当館及び丹波市内の施設で所蔵されている4人の作家の作品を約55点紹介いたします。また併催展として、メゾット技法を得意とする銅版画家・丹阿弥丹波子の作品を展示します。東京出身の丹阿弥丹波子(1927〜)の母は氷上町出身です。丹波子の父は日本画家の丹阿彌若吉。画家として用いる素材・技法は違うものの、親子で同じ絵画の道を歩んだ丹波ゆかりの作家として、当館所蔵の作品を約15点紹介します。



山本茂斗萌《柏原町木之根橋》1968年



常岡文亀《泰山木》1955年頃



常岡幹彦《浄夜》2002年



丹阿弥丹波子《そらまめ》2009年



中尾英武《薄暮》2014年

会期中のイベント

★開幕記念講演会

「丹波ゆかりの親子作家たちとその活躍」

日時：4月9日(土)

午後1時30分～午後2時30分(午後1時より受付開始)

講師：当館学芸員

会場：植野記念美術館 2階研修室

定員：50名 要電話予約(Tel.0795-82-5945)

参加費：無料(別途観覧料が必要)

★当館学芸員によるギャラリートーク

日時：4月16日(土)「山本・中尾父子と東丘社」

4月23日(土)「花鳥の文亀・山海の幹彦」

各回午後2時～3時

会場：植野記念美術館 2階ホール集合、3・4階展示室

定員：各回20名程度、予約不要

★赤ちゃんからの美術鑑賞ツアー

日時：4月22日(金)

午前10時～午後11時(午前9時50分より受付)

会場：植野記念美術館 2階研修室及び3・4階展示室

対象：0～6才の未就学児とその保護者

定員：5組 要電話予約(Tel.0795-82-5945)

参加費：無料(別途観覧料が必要)

★UEBI(うえび)ファミリーDay

日時：4月24日(日)、5月1日(日)、5日(木・祝)(各日終日)

家族での美術館デビューを応援! 小学生以下のお子様には「UEBIシールラリー」セットをプレゼント致します。ご来館の皆様には、お子様連れのご家族が多い日であることをご理解、ご協力お願いいたします。

●交通案内(美術館へのアクセス)

【電車/バス】

●JR福知山線柏原駅(又は石生駅)下車後、神姫グリーンバスで「美術館前」下車すぐ。

【高速バス】

●神戸・大阪・豊岡・城崎から高速バスで水上バス停下車後、徒歩5分。

【車】

●舞鶴若狭自動車道春日JCTから北近畿豊岡自動車道・水上I.C.経由、水上の信号を左折。

●播但連絡道路・和田山JCTから北近畿豊岡自動車道・水上I.C.経由、水上の信号を左折。

●駐車場あり(45台分)

●次回展覧会予告

「きかんしゃトーマス展

ソー島のなかまたちが教えてくれたこと」

2022年5月14日(土) 7月24日(日)開催予定

新型コロナウイルス対策へのご協力をお願い

- 必ずマスクの着用をお願い致します。
- 手指のアルコール消毒にご協力下さい。
- 来館受付簿へ連絡先等をご記入の上、受付へお越し下さい。



丹波市立 植野記念美術館

〒669-3603 丹波市水上町西中615-4

TEL.0795-82-5945

http://www.city.tamba.lg.jp/site/bijyutukan/

